

〔民間年中故事要言十二月〕大歲 俗ニ晦日ヲ大歲ト云、盧照隣ガ元旦ノ詩ニ曰ク、人歌小歲酒花舞大唐春トイフトキハ、元日ヲ小歲ト謂ナリ、シカレバ大晦日ヲ大歲トイフベキ事ナリ、大小ハ猶言老若也、

〔俳諧歲時記十二月〕除夜 十二月晦日、これを除夜といふ、言こ、ろは此夜舊年を除く也、本邦の俗、この日つぐみ鳥を焼て食ふ、是繼身の訓によりて賀する也、又質をとる家、かし鳥を食ふ、是借取の祝語なり、今は大かたこの戲なし、大歲 元日を小歲といふに對して、晦日を大歲といふ、

醉聊代編

〔改正月令博物筌十二月〕大年 大年の字をそゆるなるべし、

〔東都歲事記十二月〕晦日 又大晦日

〔統苑日涉七〕民間歲節下 除夜謂之大歲、天地神佛祖先竈井牖戶以至溷廁、燃燈輝煌達于旦、按、大歲之稱、不詳所起、蓋對小歲云、通鑑、魏制、群臣季冬朝賀、服袴褶行事、謂之小歲、宋書、魏晉冬至日、受萬國及百僚稱賀、因小會、其儀亞于歲朝、代醉編、子美有小至詩、說者謂冬至前一日爲小歲、五雜俎、臘之次日爲小歲、今俗以冬至夜爲小歲、老學菴筆記、唐人冬至前一日、乃謂除夜、所謂冬除也、陳師錫家享儀、冬除夜與歲除夜爲對、蓋閩俗也、由此觀之、古人以冬至前一日爲除夜、又謂之小歲、因以歲除夜爲大歲耳、月令廣義曰、除夜家奉天地神佛祖先之前、俱各香燈明燭、及主人臥室燃燈達旦、家宅光明、攢火圍爐以助陽炁、群談採餘曰、除夕燃燈室中、謂之照虛耗、

〔年中行事故實考十二月〕大晦日 除夜とも云、除はつくるといふ訓あり、大晦日といふ字、東鑑二十八卷に出たり、人家所々に火を多くとぼす、福を得ると云ひつたふ、和漢共にしかり、熙朝樂事曰、除夕燃燈床下、謂之照虛耗、信州諏訪にて岡見といふ事あり、高き山に登り、我家の方を見て來年の吉凶を占ふ、中華にては、正月七日岳に登り、四方を望ば、陰陽の氣をしづむる事を得て、